

言語聴覚士相談について

本校では、関西福祉科学大学の言語聴覚士である不破先生をお招きし、年間9日間にわたり言語聴覚士相談を実施しています。相談は1回45分、年間36コマで行っています。本事業は、学校と外部の専門家が連携することで、特別支援教育の充実を図ることを目的としています。

■言語聴覚士相談とは■

言語聴覚士相談とは、「ことば」や「聞こえ」に代表される音声機能・言語機能・聴覚機能に困難のある人に対し、言語訓練などを通して機能の維持・向上を図ることを目的とした相談です。具体的には、

- ・ことばの指導
- ・発音指導
- ・咀嚼や飲み込み、食形態に関する指導
- ・発達に応じた支援
- ・将来に向けた社会性の育成 などについて、専門的な助言をいただきます。



不破先生

相談を受けて・・・

相談内容 中学部Aさん。朝の会や帰りの会において、言葉の発達がゆっくりなため、思いを伝えるのに時間を要することがある。発語がより明瞭になるためには、どのような支援や指導が有効かについて相談した。

助言内容 発語の明瞭さを高めるためには、口周りの運動機能を育てることが大切である。また、語彙（特に名詞）を増やしていくことも重要であり、幼児語であってもよいので日常生活の中で言葉を多く使う経験を積むことが望ましい。さらに、言語の発達は身体の発達と深く関係しているため、粗大運動や手指の細かな動きなどの運動機能を伸ばす活動も取り入れるとよいとの助言を受けた。具体的な活動例としては、・テーブルを拭く・雑巾をしぼる・紙をちぎる・紙を強くにぎる・ボールを投げてバケツに入れる・平均台を渡る・ジャンプして物を飛び越える（反復横跳びのような動き）・しりとりをしながら書く活動など。

身体は全てつながっているため、話すことだけを単独で伸ばすのではなく、全身の運動や手指の動きなども含めて総合的に育てていくことが大切であるとの助言を受けた。

以上の助言を生かし、クラスでは卒業式で使用のお花紙の花作りの活動に取り組んでいる。また、国語をはじめとする各教科の授業においても協力を得ながら支援を行っている。本人の好きな活動を取り入れながら、発語や運動機能の向上につながるよう取り組み、少しでも成長につながるよう支援を継続していきたい。